

静岡県連・40周年記念山行報告書

会名	裾野麗峰山の会	報告者	貫名 要
年月日	2005年11月05日(土・晴)		
山名	伊豆河津・天嶺山(349.6m)、下田・相ノ山(252.9m)、下田・三倉山(御蔵山・214.1m)		
2万5千図	天嶺山=下田(地図は2万図に拡大してあります) 相ノ山=下田(") 三倉山=神子元島(")		
体力度=楽	技術度=楽	藪漕ぎ度=三倉山はある	道標=全くない
展望度=全山	三角点=三等三角点	トイレ=ない	頂上携帯=OK
伊豆の里山に上る			
コースと タイム	河津・谷津温泉6:45-天嶺山頂上7:48-伊豆急行踏切下山8:47-相ノ山登り口10:27-相ノ山頂上11:11~12:00(昼食)-林道下山12:20-三倉山登り口12:42-鉄塔下12:55-三倉山頂上13:26-林道下山14:25-下田小田宅		
標高差	上り=三山合計で1000mくらい 下り=同上		
参加者	CL・後藤隆徳、貫名 要、貫名みどり		

天嶺山 (349.6m)

天城峠を下り、河津・谷津温泉に入り道路脇に駐車する。(狭い)伊豆急行線路脇の小さな橋を渡り線路を横断し(線路ガード下の橋を渡り山側に出るルートが良い)急登な杉林を登る。(途中少し藪漕ぎ有り)標高約160mに犬岩(仮称)がある。

標高約289mのピークで左側の尾根と合流する。その先標高約300mに昔、使用したと思われる、温泉?のパイプが横切っている。こんなところに何故?

尾根を上っていくと標高約320mに差し掛かり、右側下より国道を走る車の音が聞こえてきたらすぐその先が標高349.6mの天嶺山頂上だった。ここまで、ほとんど藪はない綺麗な尾根だ。

山頂は測量で草木が刈られていたが、周囲の木が邪魔をして展望がよくない。海が少し見える。三角点は三等三角点だった。土肥の葎田(よしだ)さんの山名標識板が外れて落ちていたので後藤CLが応急処置で取り付けた。

下山は上った尾根の左隣の尾根を下る。標高約335mの小ピークを越え標高約320mに例のパイプと灰色の塩ビパイプが引かれている。塩ビパイプに沿って下ると標高約290mの右側にあるブロック小屋を過ぎ、標高約180mの「一つ目岩」(仮称)を左に見て標高約170mのコルから標高約180mの小ピークを下る。右へ赤色のプラスチック杭を目印に急斜面のウラジロシダを藪漕ぎして下ると、標高約95mの左側に大岩がある。

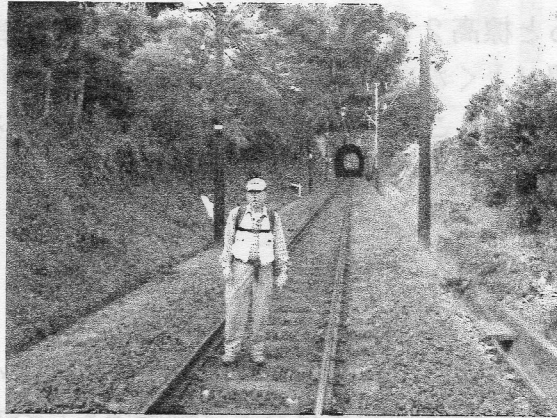
右に下ると竹林があり伊豆急行の踏切に出た。そこが下山口となった。踏切横に昔の



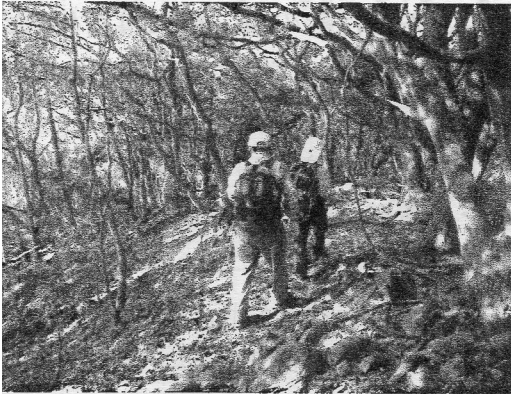
天嶺山頂上



葭田さんの山名表示板



伊豆急行
下山口



相ノ山



三倉山頂上



姿を残した水汲み場があった。真鍮の蛇口に（水）と彫られている。歩かないと分からないことだ。地元の人によると、天嶺山の山頂に戦時中敵の飛行機を看視する看視所がありそこに竹筒に水を入れて運んだと言う話を聞いた。この先に地元の共同浴場があったが入りそこなった。

相ノ山（252.9m）

下田に向かい吉佐美先の大賀茂川を右の折れると、右手に見えるのが相ノ山だ。農道（途中から林道になる）横の農作業用広場に駐車して、登山口に向かう上れそうな道のススキをヤブコギして上って行くと樹林帯に入る。

猪の足跡と砂浴び跡を見ながら標高約185mのピークを越えると頭の無いお地蔵さんと炭焼き跡があった。

その先の急登を登ると標高252.9mの相ノ山頂上だ。山頂は一坪位で狭く周囲の木に邪魔されて展望がよくない。三等三角点があった。

昼食を摂り下山に入る。ここも上った尾根の左の尾根を下る。下山口は上る前に歩いた農道が林道に変わった奥の行き止まりの所に着いた。

三倉山（214.1m）

三倉山（御蔵山）は相ノ山の西に位置する山だ。標高は低いがピラミダルな格好の良い山である。ゼンリンの伊豆地図を見ると「御蔵山」だった。が、先日後藤さんの所にHPを見た「伊豆人」さんから指摘があり、この山はその昔、麓には古代人が住み「三倉山」と呼び信仰の山だった、と教えられたそう。従ってここでは、「三倉山」としておく。

町道の先にヤオハンの寮と駐車場があったので、そこに駐車して上りに入る。標高約130mの鉄塔下に出る。山頂目指して尾根を上るがウラジロシダがすごく、藪漕ぎを諦め鉄塔下に戻る。

元に戻り西にルートを変え、シダを藪漕ぎして急登を上ると斜面が雛壇状に造成した跡がある。規則的に幾重にもあったので昔、何かがあったのだろう。標高約205mに岩の洞穴がありその前を登って行くと標高332.4mの三倉山頂上だ。

山頂は広く祠が祀ってあり、お酒が供えてあった。製造何月日を見ると04年11月だった。とすると、ここに供えたのは今年の正月だろうか？壊れた共同テレビアンテナがあった。展望は木々が多くて良くない。

三等三角点があった。下山はシダのブッシュを避けようと北側に下った。どこもシダが多くルートを見失い沢筋に出で東に向かう。地図とコンパスで後藤CLがルートを再三確認し、分岐した沢筋を上り、頂上から北に延びる尾根に出る。尾根に沿って下る。杉・檜林を下った先は立派な林道でこれを下ると、ヤオハンの駐車場に着いた。このとき出た沢に水場の跡や猪の足跡と水浴び跡が多く見られた。